

日本医療マネジメント学会

第 30 回岡山県支部学術集会 会長挨拶

国立病院機構岡山医療センター 院長
柴山 卓夫



このたび、日本医療マネジメント学会 第 30 回岡山県支部学術集会を開催させていただき運びとなりました。岡山県内の多くの医療機関をはじめ、行政機関、医療・健康関連企業の皆様からのご協力とご支援を賜り、本学術集会を開催できますことに、心より御礼申し上げます。

我が国は今、かつてないスピードで少子高齢化が進行しており、2040 年には 85 歳以上の人口がピークを迎えるとされ、医療・介護の複合的なニーズを有する高齢者の急増が予想されています。このような社会構造の変化に対応するため、厚生労働省は「新たな地域医療構想に関するとりまとめ」を公表し、地域ごとの医療提供体制の再構築を提唱しています。

その中で 2040 年には、高齢者の救急搬送が 2020 年比で 75%、在宅医療の需要は 62% 増加すると推計され、急速に増加する高齢患者に対応可能な入院および在宅医療の確保が急務とされています。

一方で、医療を支える側の人材は減少の一途をたどっており、生産年齢人口の減少により、医師や看護師などの医療従事者の確保は益々困難となり、医療 DX の推進、タスクシフト・シェアの拡充、そして医療従事者の働き方改革など、多面的な取り組みが求められています。

そのような背景の中、今回の学術集会では「少子高齢化社会を目前に、今私たちに求められること ～This is our mission～」をテーマに掲げました。かねてより課題として指摘され、今、目前に現実化してきた「少子高齢化と人口減少」に対する即効性のある処方箋を見出すことは困難で、将来像さえ明確に描けていない現状の中で、我々医療従事者にも長期的な視点に立った医療マネジメントの実践が求められています。

特別講演では、『未来の年表 ～人口減少日本で起きること～』の著者である河合雅司氏をお迎えし、具体的な未来社会の姿やその課題、そして日本を救うための処方箋についてご講演いただきます。これを受けて、シンポジウム「少子高齢化社会の中での持続可能な医療を考える」を開催し、参加者の皆様と共に岡山県の医療の未来について深く議論を重ねたいと考えております。

また、一般演題発表も予定しており、多くの皆様にご参加いただく中で、本県の医療マネジメントのさらなる発展に寄与することを願っております。本学術集会は、平成 18 年に当院にて第 1 回が開催されて以来、岡山県内施設の持ち回りにより開催されており、今回は 4 巡目にあたります。

多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。